

大宰府条坊跡

第 113 次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

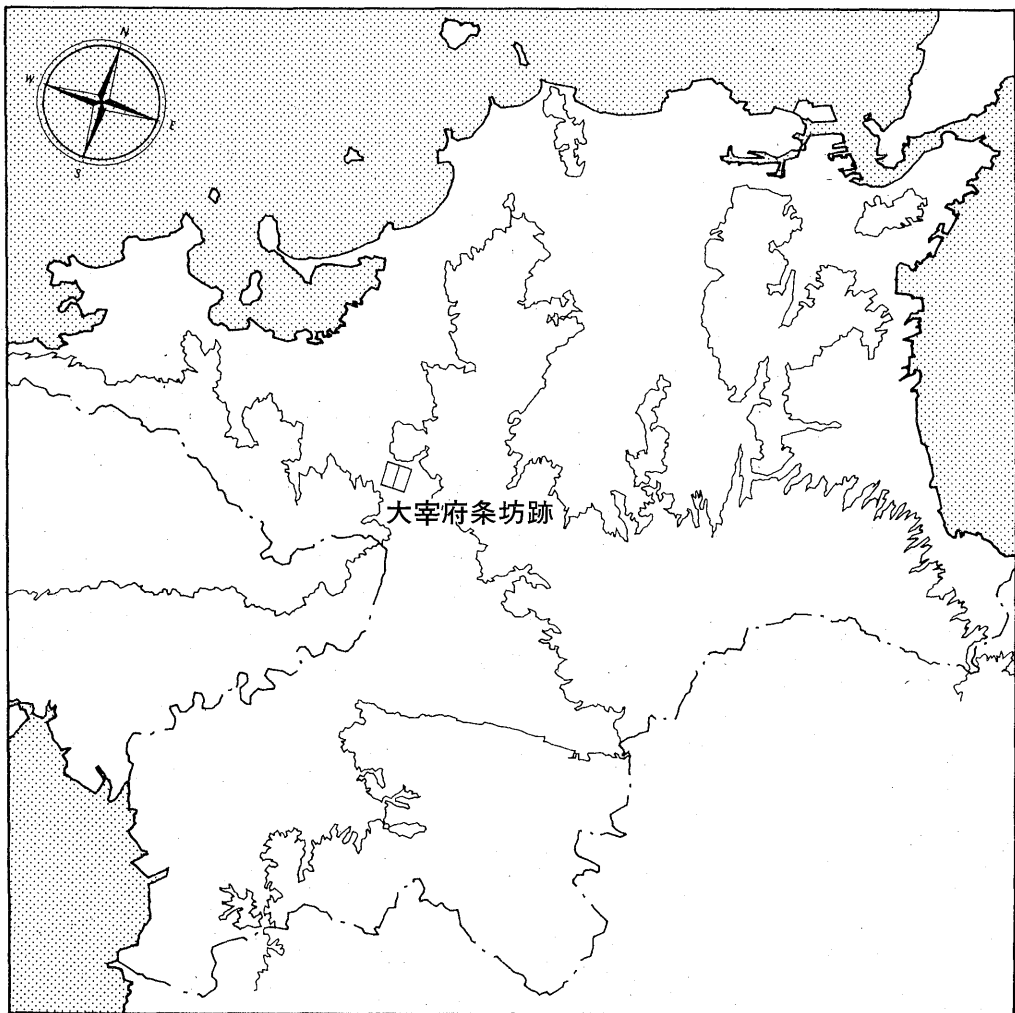
第 32 集

1 9 9 2

筑紫野市教育委員会

例 言

1. 本書は自己専用住宅建築に伴い、筑紫野市教育委員会が実施した筑紫野市大字塔原の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査にあたっては、平成3年度国宝重要文化財等保存整備費の国庫補助を受けた。
3. 発掘に係る実測・写真撮影は奥村俊久のほか、東亜測量設計株式会社にラジオコントロールヘリコプターによる空中よりの写真撮影を委託した。
4. 製図は森田くみ子が担当した。
5. 本書の執筆・編集は奥村が行った。
6. 挿図中、遺構図の北は真北を示す。



序

筑紫野市は福岡市と久留米市のほぼ中央に位置します。東西から山々が迫り、その間に肥沃な平野をもつ当市は、太古から北部九州沿岸と九州の内陸部を結ぶ交通の要衝として栄えてまいりました。今日までの発掘調査でも中国製の青銅器や陶磁器などが発見され、市の北部は大宰府条坊の一部だったようです。日本で最も古い城である基肄城の一部や塔原廃寺、杉塚廃寺といった寺院跡の遺跡が点在します。また、大宰府から豊前へ通じる官道も当市を通り、近年の発掘調査では万葉集に詠まれた蘆城駅家の跡と思われるものも発見されました。このような歴史に育まれた当市には、たいへん多くの遺跡があります。そして大規模な開発から小規模な建築まで、多種多様の工事が実施されています。今日的な人々の営みのなかで、後世に伝えて行くべき義務を負う文化財を保護するため、さらに努力を重ねる所存でございます。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご協力いただきました方々につきまして、衷心よりお礼申し上げますと共に、今回の成果が郷土の文化財に対する関心を深める縁ともなれば幸甚に存ずる次第でございます。

平成4年3月31日

筑紫野市教育委員会

教育長 永 渕 正 敏

目 次

	頁
I 調査に至る経過	1
II 位置と環境	1
III 調査の内容	5
IV まとめ	6

挿 図 目 次

	頁
第1図 周辺遺跡分布地図(縮尺1/25,000)	2
第2図 調査地点周辺地形図(縮尺1/5,000)	3
第3図 遺構配置図(縮尺1/100)	4
第4図 SK—01実測図(縮尺1/40)	5
第5図 SK—01出土遺物実測図(縮尺1/2)	6

I 調査に至る経過

平成2年9月5日付けで、農地転用に伴う道路状況等事前協議申請書が提出され、筑紫野市では同月7日、受付番号134号で受理、事前協議を行った。当該地は周知の遺跡である大宰府跡内に位置し、試掘調査により遺構が存在する事が明らかとなっている地域である。市教委では、建築に際して発掘調査が必要な旨を連絡し、農地転用申請については文化財の保護措置終了後、教育委員会の許可を得て着工することを条件に、同月20日、文化財保護にかかる協議済書を発行した。同日、事業者から埋蔵文化財発掘調査の依頼文書と文化財保護法57条の2第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出された。埋蔵文化財発掘の届出は直ちに受理し、県教育委員会に進達した。10月31日には周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事について、事前に発掘調査を実施する旨の平成2年10月15日付けの県教育庁よりの通知があった。市教委では、これを申請者に伝達すると共に、当該事業が申請者の自己専用住宅の建築に伴う発掘調査であるので、平成3年度の国庫補助を申請し、平成3年8月24日から発掘作業を開始した。

なお、調査組織は下記のとおりである。

総括	筑紫野市教育委員会	教育長	永渕正敏
庶務	筑紫野市教育委員会 社会教育課	課長	竹田征治
	〃 文化財係	係長	山野洋一
	〃 〃	主事	奥村俊久
調査	筑紫野市教育委員会 社会教育課 文化財係	主事	奥村俊久

II 位置と環境

筑紫野市は福岡平野と筑紫平野の接点に位置し、三郡山塊と背振山塊に挟まれた狭長な平野部は古代から交通の要衝であった。さらに市の北部は、推定大宰府条坊跡^{註1}の範囲に入る。市内には杉塚廃寺^{註2}や塔原廃寺^{註3}などの寺院跡の外、鴻臚館から大宰府に至ると推定される官道や朱雀大路の一部も発掘された（大宰府条坊跡第99次発掘調査／1990年発掘、大宰府条坊跡第107次発掘調査／1991年発掘）。

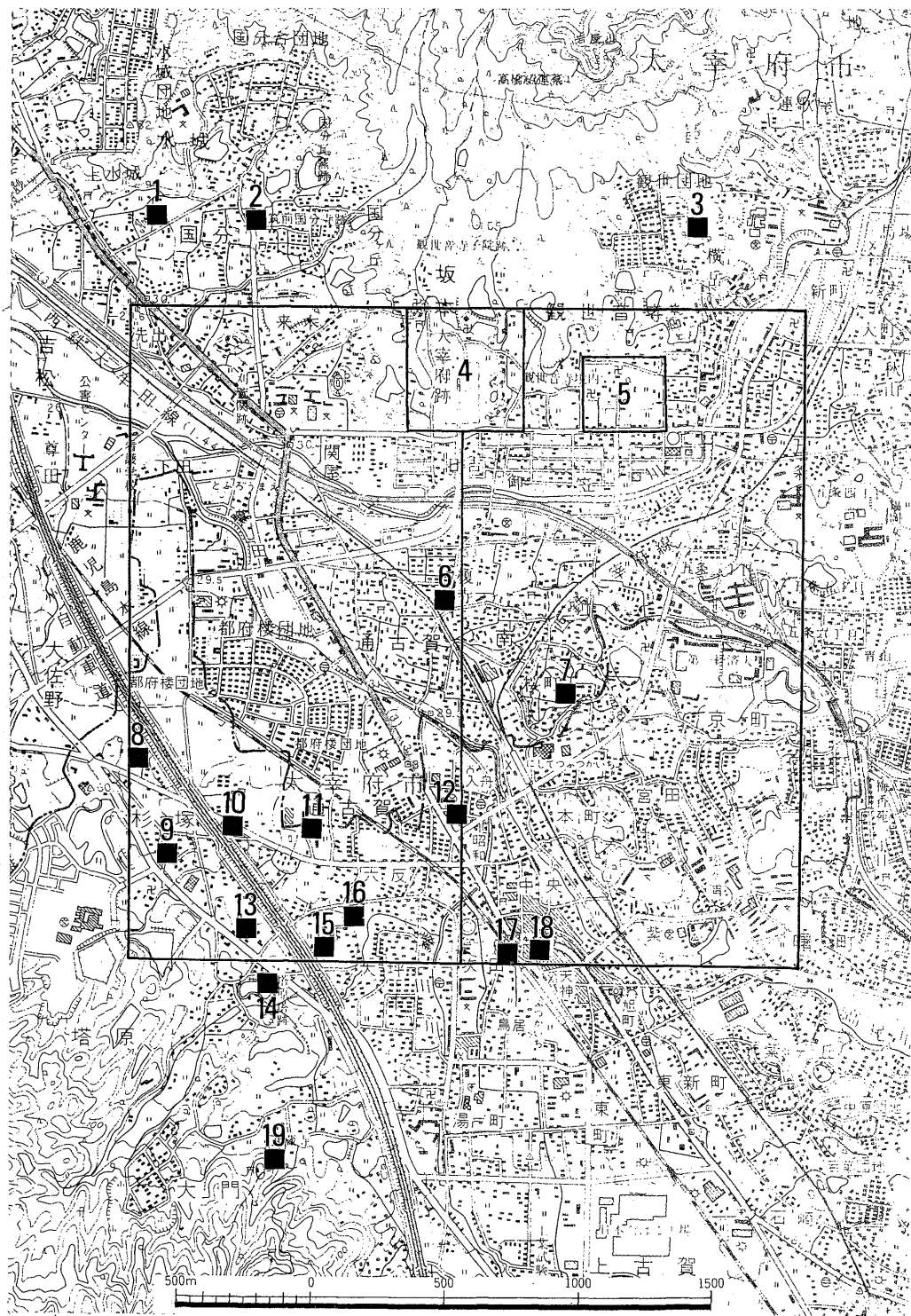
今回の発掘調査地点は、筑紫野市大字塔原489番地に位置する。鏡山猛氏の推定条坊では、右郭四坊二十一条に当たる。

註

註1 「大宰府城郭の研究」 鏡山 猛 1928

註2 杉塚廃寺 筑紫野市文化財調査報告書第4集 筑紫野市教育委員会 1979

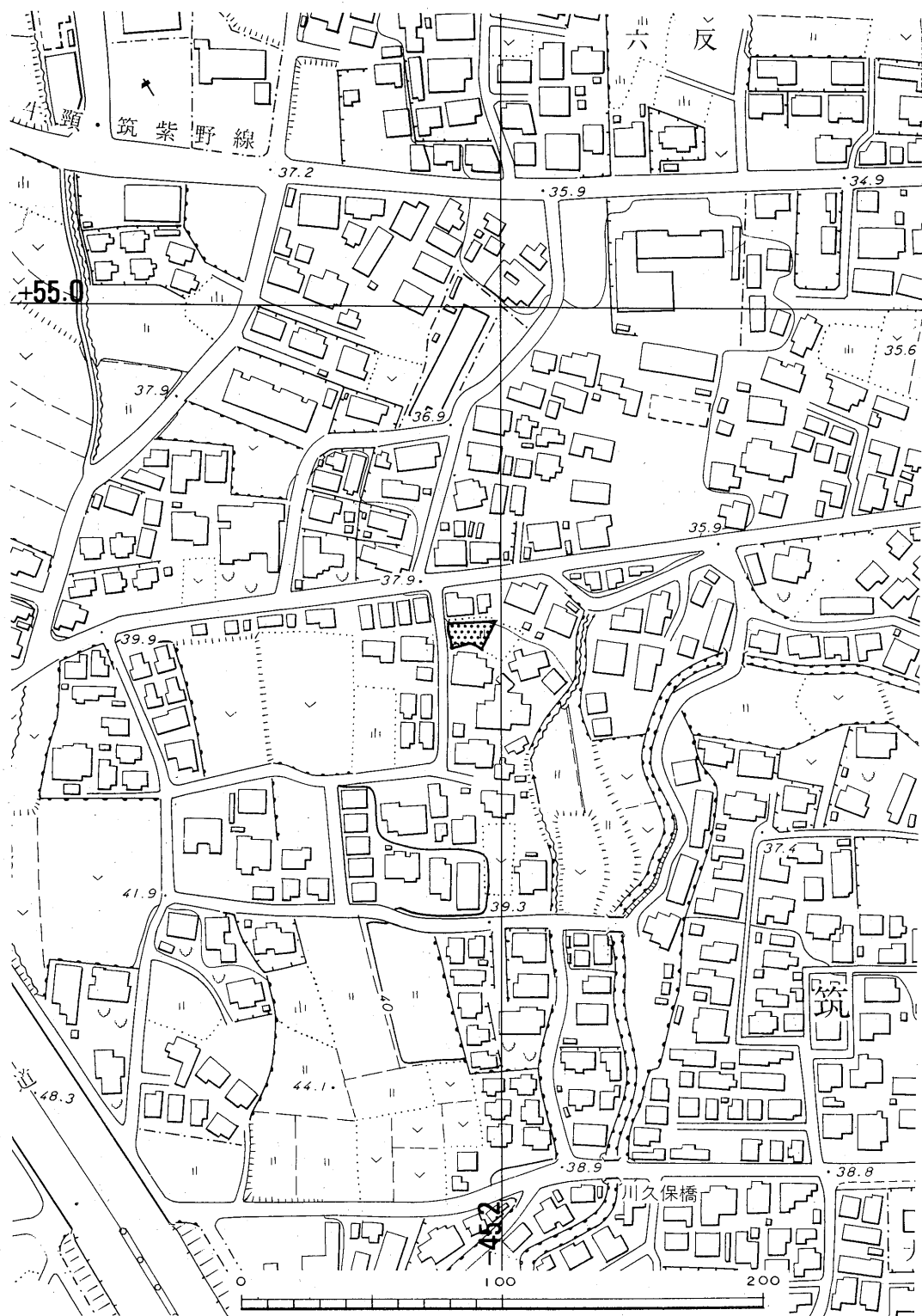
註3 塔原廃寺 福岡県文化財調査報告書第35集 福岡県教育委員会 1967



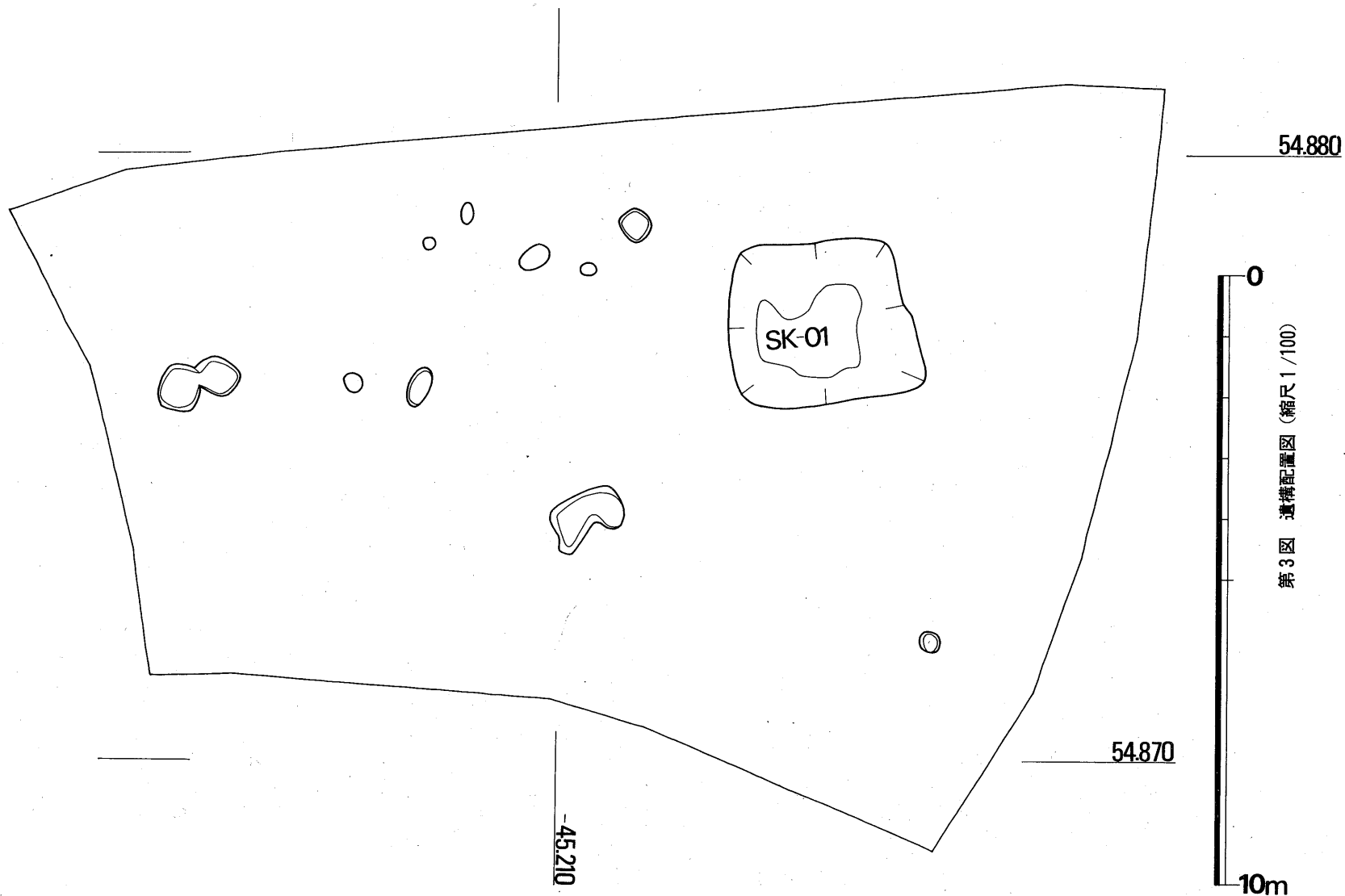
第1図 周辺遺跡分布図 (縮尺 1/25,000)

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 筑前国分尼寺跡 | 2. 筑前国分寺跡 | 3. 崇福寺 | 4. 大宰府政庁跡 |
| 5. 観世音寺 | 6. 榎寺 | 7. 般若寺跡 | 8. 条 99 |
| 9. 杉塚廃寺 | 10. 条 112 | 11. 条 86 | 12. 条 107 |
| 13. 条 82 | 14. 塔原廃寺 | 15. 条 103 | 16. 条 113 |
| 17. 条 85 | 18. 条 114 | 19. 武蔵寺 | |

※条○○=大宰府条坊跡第○○次発掘調査地点



第2図 周辺地形図 (縮尺 1/2,500)



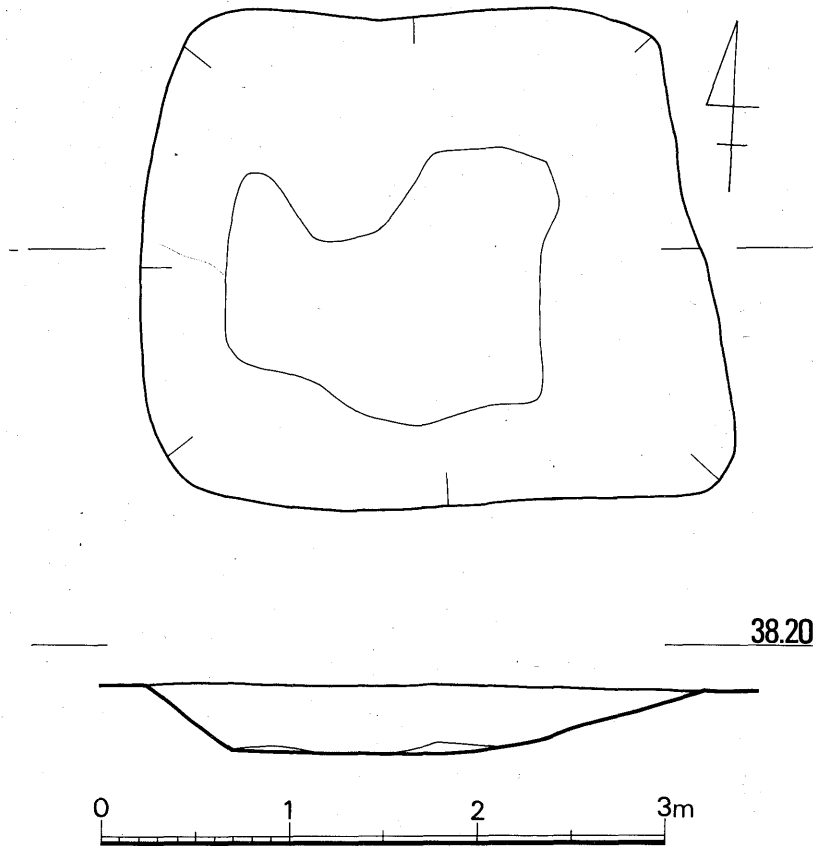
第3図 遺構配置図 (縮尺1/100)

Ⅲ 調査の内容

遺構（第3図／図版2）

160㎡を発掘調査した。遺構は土壇1基（SK—01）とピットが検出され、良く締まった砂層に掘り込まれている。

SK—01は2.5×3mの方形プランを呈し、緩やかに下る壁体をもって、不整形な床面に至る。床面は平坦である。



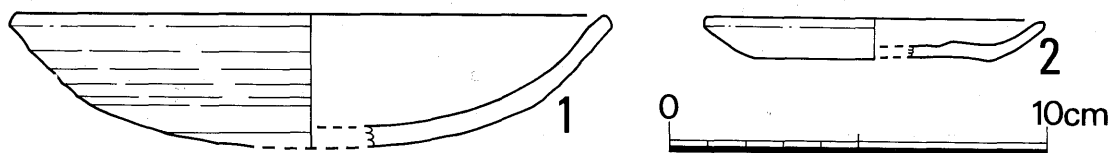
第4図 SK—01実測図（縮尺1/40）

遺物

遺物は遺構検出時に土器の小片が若干と、SK—01から出土した。

SK—01からは4点の土器片が出土した。1は1/4程度が遺存する土師器の坏である。口径は16cm、器高3.5cm程と推定される。体部はヨコナデにより5mm間隔で凹が見られ、ヘラ切りされる底部は押し出され、丸く収まる。2は土師器の小皿で、口径は9cmと推定したが、小片のた

め誤差が生じ得よう。底部は、糸切りである。他の2点は、1点が須恵器の坏または壺等の底部の小片である。高台はもたない。もう1点は土師器の坏または碗の口縁部の小片である。



第5図 SK—01出土遺物実測図（1/2）

IV ま と め

試掘調査においては、溝状遺構とピットが検出されたが、溝状遺構は複雑に堆積した数層の砂層と削平が織り成したもので、遺構ではなかった。明確な遺構としてはSK—01であるが、遺物は小片の土器4点で、遺構の包土からの出土である。このため時期、性格は明確にはしえない。今回調査地周辺では120m南西を1991年に発掘調査しており、今後さらに周辺の発掘調査が進展すれば今回の成果を含め、大宰府推定条坊南域の性格が明らかになると思われる。

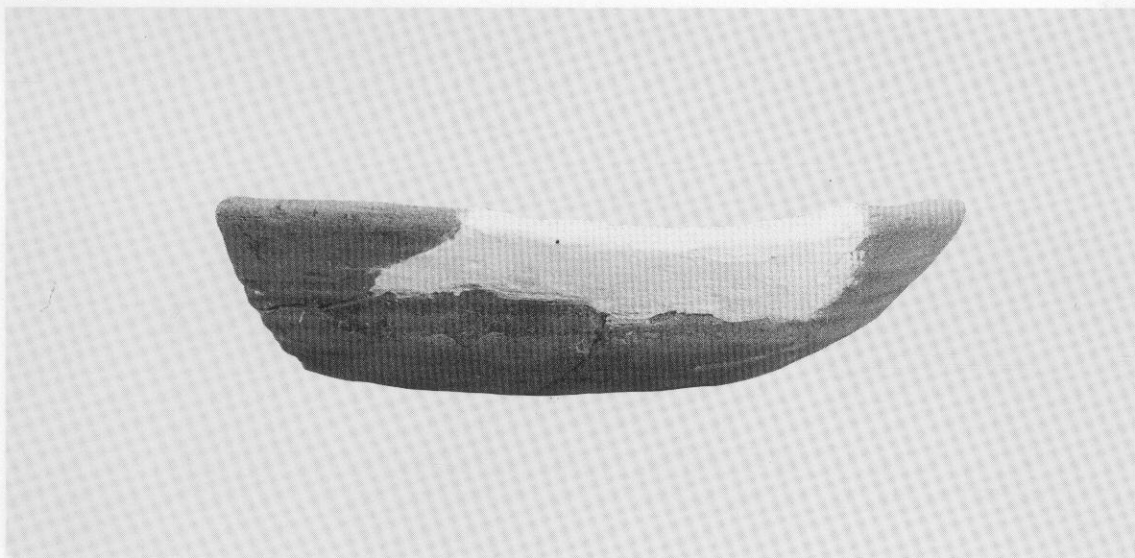




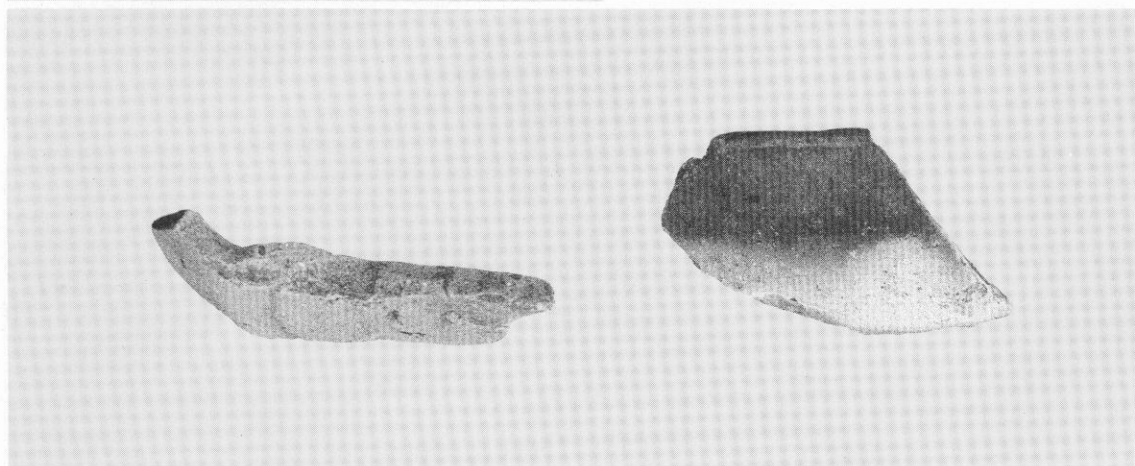
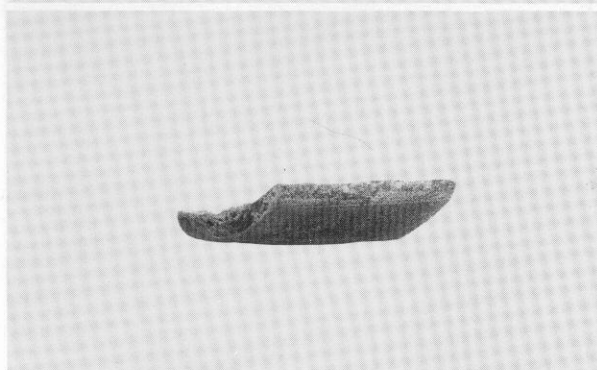
調査区遠景（東から）



調査区全景（上から）



◀▲▼ SK01出土遺物



大宰府条坊跡

第113次発掘調査

筑紫野市文化財調査報告書

第32集

発行 筑紫野市教育委員会
福岡県筑紫野市大字二日市753-1

印刷 株式会社川島弘文社
福岡市東区箱崎ふ頭6丁目6-41